



学生部長
宗方 比佐子 教授

最近の就職状況を振り返って

昨年度就職を希望した学生のうち、就職が決まった学生の割合は96.8%。3月の終わりの時点でほとんどの学生は就職が決まり、残りの3%ほどの学生も年度が変わると早い段階で就職が決まっています。就職先としては、近年パソコンをはじめとする情報技術が普及していることから、文系の学生であってもSEなどのIT関連の職種を希望する学生が増えています。また、社会の高齢化にともない福祉関連の分野へ進む学生も目立ちます。全国的に見ても本学の就職状況は非常にいいといえます。朝メールを見ると「就職が決まりました！」という文字が目飛び込んでくることもあり、とてもうれしく思っています。

**学生が人生設計について考え
目的意識を持ってもらうために**

**キャリア全般に関する
疑問・不安に答える**

一方で、就職に関して悩みを抱える学生がたくさんいます。職業が多様化する中で、自分のやりたいことが見えてこない、どのように就職活動を行えばよいかわからないといった学生もいます。最近では、就職以外の選択肢として大学院へ進学し、専門性の高い資格の取得をめざすといった学生も増えています。

こうした中、もっとも大切なことは、人生をトータルに考えるという視点でキャリア支援をすること。自分の将来を長期的に考える機会を与えることで、学生は自ら進みたい進路を見つけたり、就職したい会社や大学院で取得すべき資格などを考えるようになります。そうした取り組みの一つとして、昨年度から1年次の必須科目に「キャリア開発A」を開講しました。これは、学生がそれぞれの人生設計について考え、どのような学生生活を送るべきかといった目的意識を早い段階で持つことを主眼としています。

卒業生の方や、既に就職が決まった4年生が就職支援のアドバイスにあたる取り組みも行っています。学生の前で就職活動の体験談や学生の

うちにしておくべきことなどを話してもらう機会もあります。

ある4年生などは、1年生から受けた質問に対して一人ひとりに手紙で返事を書いてくれました。学生たちにとっては就職を考えるための、たいへんよい刺激になったのではないかと思います。

**今後の就職支援への
取り組みについて**

こうした取り組みを通して、先輩である卒業生のいろいろな生き方や働き方をモデルにして、学生が自分の将来像を描けるようになることが理想です。今後は資格取得に関するキャリアアップ講座にもOGに来ていただき、仕事に必要な資格などについてきめ細かいアドバイスを行う場を設けたいと考えています。

また、授業では実際の仕事現場を体験する機会もあるので、幅広い視野を身に付けてほしいと思います。自分の人生の主役は自分です。ただ夢を追いかけるというだけでなく、人の役に立つ、自分自身で経済的に自立するといった目的を持つことが大切。自分がどのような人生を生きたいか、どのように過ごしていきたいかを常に考えてください。

■特色ある就職支援プログラム

■ エアラインプログラム

JALと英語英米文化学科の提携により実現した実践的なプログラムです。これまでの英語英米文化学科の高度な英語運用能力、国際的な教養及び論理的思考能力が身に付くカリキュラムに加え、2年次より専門科目としてツーリズム論、エアラインビジネス論などの科目が開講され、3年次には実際にJALでの実地研修(インターンシップ)も行われます。キャビンアテンダントやグランドスタッフをめざす学生を強力に支援します。

■ マスコミプログラム

マスコミプログラムは、アナウンサーやテレビタレントの育成に実績のあるテレビタレントセンター(TTC)と情報文化学科の提携によりスタートします。マスコミの現場で活躍するアナウンサー・ディレクター・プロデューサーなどのTTC講師陣に、情報文化学科の専門科目5科目へ出講していただきます。マスコミプログラムを通じて放送業界への就職支援をはかります。なお、これらの授業は情報文化学科以外の学生も履修することができます。

■資格を取得し今春就職した卒業生に、現在の活動状況や今後の目標、
在学中に身に付けておいて役立ったことなどをインタビューしました。

商業施設士補、
福祉住環境コーディネーター2級

渡邊 友香理さん

生活環境学部 環境デザイン学科
勤務先:住友林業株式会社

2006年3月卒業



2級建築士をめざして猛勉強中! 将来、自分が住む家は自分で設計したい

10数年前に実家を建て直すことになりました。建築業者の方と両親が図面を見ながら打ち合わせをしている様子を眺めていたとき「家を建てる仕事っておもしろそうだな」と興味を持ち、環境デザイン学科で学び、希望の職に就くことができました。技術職の採用で入社し、現在は建築



在学中に制作した
内装のイメージや
平面図

工事現場を視察したり、先輩と同行してお客様との打ち合わせをしています。ゴールデンウィークには住宅展示場で接客も経験しました。その中で気づいたのは、家を建てるにあたってお客様はいろいろな意見や疑問、不安をお持ちなんだなということです。家を建てるというのは大きな買い物ですし、そういった気持ちをやわらげるためにも、お客様の視点に立って提案やアドバイスができるようにならなければなりません。自分への課題は山積みです。

家族と話をしていると親から私に「家のリフォームを頼もうかしら」という話題になることも。研修期間を通じていろいろな角度から仕事を

見られるので、たくさんの方を吸収して、お客様が長年に渡って安心して暮らせる家を設計できるようになり、将来的には自分が住む家も自分で設計して建てたいと考えています。

設計するとき、特に気を配りたいのがバリアフリー。ユニバーサルデザインという言葉が一般的になってきていますが、段差や階段などを極力なくすなど、お年寄りや身体の不自由な方が住むときの配慮に心がけたい。そのための知識としても資格を取ることは大切ですが、取得が目的ではなく、技術を身に付けるために取り組んでいくと、将来、実践で役立つと感じています。今は、2級建築士をめざして猛勉強中です!

管理栄養士

小澤 愛さん

生活環境学部 食環境栄養学科 2006年3月卒業
勤務先:高針福祉会/ケアサービス株式会社



「おいしい!」の一言が何よりの喜び 管理栄養士は、料理で人々を癒します

高校生のころから、食べ物のことや食べることに興味がありました。大学で勉強していくうち、難しいなどと思う反面ますます興味が出て、将来、管理栄養士の仕事ができればいいなと考えるようになりました。現在の職場は、ちょうど仕事を探していたときに大学の先生に紹介されたところです。

仕事内容は献立づくりが中心。毎週一週間分のメニューを立て、一回の食事は5品目くらい用意します。料理をするのは好きですが、実際に働いてみたら自分のレパートリーの少なさががっかり。ずっと施設を利用されている方に飽き

られないよう、カロリーや栄養バランスを考慮しつつ見た目や味も整えて、多くのメニューを考えなくてはなりません。

高血圧だった方が施設を利用し、だんだん血圧が落ち着き、「体調が良くなってきた」「病気が治ってきた」といわれると、やりがいを感じます。また「おいしい!」の一言が何よりの喜びです。

大学の勉強で、特に役立っていることは病気に関すること。塩分をひかえたり、油っこいものを少なくしたりなど、生活習慣病を食事によってどのようにケアしていくか。また、糖尿病の方や医師か

らカロリー制限をされている方など、病気の治療や予防をするうえで、食生活の見直しはとても重要だと感じています。今振り返ると、実習で少しでも現場にたずさわったことがよい経験になっています。

利用者の方と一緒にメニューを決めたり料理もしたり、さらに一緒に食べたりできるといいなと思います。今後は利用者の方々と接する時間を多く持ち、栄養管理マネジメントのような仕事も積極的にやっていきたいと考えています。もっとコミュニケーションを図り、料理に対する希望があれば気軽に相談されるようになりたいと思います。

精神保健福祉士

笹原 香織さん

人間科学部 心理学臨床心理学専攻
勤務先:セカンドハウス 喜怒哀楽

2006年3月卒業



利用者の方々の生活をサポート 楽しみながら自分も成長できる仕事に出会えた

もともと人と接することが好きなので将来は人と関わる職に就きたいと考えていました。大学に入ってから精神保健福祉士の存在を知り、心理学で資格が取れることがわかり、ハンディキャップのある方々のサポートができるということから取得をめざしました。心理学を難しいとは思わず、とても興味深く勉強を進めていくうちに、私自身、人と寄り添って生きていきたいんだと、自分のことも見えてきました。

現在、ハンディキャップのある方々の生活をサポートしています。セカンドハウスの名称の由来は、自宅がファーストハウスとすると、ここは

第二の我が家という意味です。ハンディキャップを持っている方の今まで生きてきた習慣や生活のリズムを尊重しながらお世話をする立場にいますが、その方々の気持ちと私が考える理想とがなかなか噛み合わなくて、兼ね合いがとても難しいと感じています。少し歩くのが困難だったり、精神的に不安定だったり、生活のリズムができていなかったり。それを入所者の方の気持ちを大切にしつつ、よりよく生活していただくには、どのように接するのがふさわしいのかと日々考えてばかりいます。また、障害者というと一般的に偏見を持たれたり、なかなか地域に出ら

れないという現状を身近にし、なんとかしなければならぬ問題だと感じています。偏見をなくし、地域の人との関わりを持てるようにするには、どうすればよいのかを試行錯誤しています。

精神保健福祉士の試験を受けるにあたっていろいろと知識を得ましたが、実際に働いてみると毎日が勉強の繰り返しで、反復しながらレベルアップをしていかなければなりません。

今の仕事を続けるにあたっては、他者が私に何を望み、自分は何ができるのかを自分なりに分析することが欠かせません。好きだからこそできる仕事だと痛感しています。

音楽療法士(補)

石川 喜子さん

人間科学部 芸術表現療法学科

2006年3月卒業



音楽を使って患者さんを治療する音楽療法士 1つ1つが新しい経験です

小さい頃から音楽関係の仕事に就きたいと思っていました。高校生のときに担当の先生から「音楽で患者さんを治療する職業がある」と教えていただき、音楽の先生としてではなく、音楽を通じてより深く人と関わることに魅力を感じて音楽療法士をめざそうと思いました。



音楽療法に使う様々な楽器の例

音楽療法士とは、心や身体に病のある人に対し、よりよい状態への回復や維持のために音楽を使う治療者をいいます。音楽を聴いて和んでいただくというだけでなく、一緒に音楽を楽しむという姿勢で接しています。そうした中で、私自身も知らず知らずのうちに癒されていると感じることもあります。

病院や施設、ときには自宅など仕事場はさまざまです。教科書を開いての勉強も大切ですが、現場での実習時に先生のやり方をじっくり観察し、学ぶことが何よりも身になります。患者さんが輝いていた、元気だった頃の時代の曲を使うことによって効

果があると言われていますが、高齢者の方と接するとき、昔の曲がわからなくて戸惑うこともあり、まだまだ勉強中です。また、曲を知っていても当時の時代背景を知らなければ深い共感はできません。ですから、祖母から昔の流行歌や暮らしぶりを教えてもらったりもしています。

まだあまり世間に知られていない職業ですので、自分で道を切り開いていくことは大変ですが、さまざまな出会いを広げていきつつ、音楽が好きという気持ちを忘れないようにがんばりたいと思います。

3年間の臨床経験を積み、早く、音楽療法士になりたいと切に願います。

■より専門的な知識、ワンランク上の資格をめざすため、卒業後の進路に
大学院を選んだ先輩からのメッセージです。

大学院進学

長谷川 恭子さん

現代文化学部 国際社会学科 2005年3月卒業
大学院文学研究科 博士課程前期課程社会学専攻2年



よりよい地域社会づくりのための NPO研究を進めています

地域社会におけるNPO（特定非営利活動法人）の展開とその可能性についてを研究テーマにしています。特に修士論文では、NPOと行政の協働について、地元自治体の調査をふまえて書いていきたいと考えています。

今までの公共サービスは、すべて行政に任せていた形になっていましたが、「官」から「民」へと徐々に時代の流れが変わりつつあります。この流れのなかNPOは、その特性と社会的役割を生かして、行政と協働し公共サービスを担う存在になっていくと考えています。

そもそもNPOと行政は、ともに非

営利・公益分野を担っています。また社会的・公共的課題を解決する存在として、そのめざすところは、よりよい地域社会づくりです。その意味でもNPOと行政は、よいパートナーシップがとれるのではないかと思います。それぞれが役割分担を理解し、協働を進めることで、公共サービスの内容をより豊かにできるということもいえるでしょう。

しかし、現時点のNPOは、小規模で経営基盤が不安定なものが多く、このままの状態では、行政と対等なパートナーシップがとれるとは言い難いかも知れません。今後、NPOが行政と

は違う発想で、地域に密着したきめ細やかなサービスを提供し、活動が活発化していくようになれば、それらの活動が社会で果たす役割について、もっと認識されていくと考えています。

NPO自体が、日本にとって新しい存在ですので、その活動はまだ試行錯誤の状態にあります。時には、理想ばかりを追い求めてしまうのでは…と不安になることもあります。しかし、まだ試行錯誤の段階だからこそ、良い点を伸ばし悪い点を改善し、地域社会に最適な、どのような形にでもなっていくと信じて研究を進めていきたいと思っています。

■ 大学院が変わりました

文学研究科

文学研究科は「文学」だけを研究対象としているわけではなく、広範囲にわたる領域の学術研究とともに、修了後には社会に貢献するために、実際的な知識や技術も修得できるようなカリキュラムを構成しています。また、所属専攻のカリキュラムに限定されず、学際的な研究もできるような配慮もしています。

国文学専攻は、従来の日本文学、日本語学、中国文学に加えて、新たに日本語教育の分野をその研究対象とし、日本語教育に関する科目を開設しました。

英文学専攻は、英語の運用能力をさらに高めながら、英米の言語と文学を深く研究する分野を維持するとともに、高度な専門性を備えた英語教育の専門家を養成するための科目もスタートしました。

社会学専攻では、国際的視野に立った明晰な判断力と問題解決の洞察力の啓発に努め、国際関係、情報、福祉、社会学等の分野の研究を通して、望ましい社会の発展を先導できる人材の養成をめざしています。

人間生活学研究科

人間生活学研究科は、生活環境学部と人間科学部の研究領域に対応できるカリキュラムを備えています。ワンランク上の資格を取得したい方、専門的な知識を身につけたい方への支援・育成をめざします。

消費者科学専攻では、衣食住に関する諸問題を消費者の視点から解明できる人材を養成します。カリキュラム改訂により、従来の中学校・高等学校家庭科教員の専修免許状に加えて、学校心理士（補）受験資格が取得できます。さらに大学院在籍期間が、1級建築士受験の実務経験年数にカウントされます。

人間発達学専攻では、少子・高齢化という社会現象の中で高齢者介護、女性の就業・結婚・子育て、育児・虐待、不登校など個人の発達に関わる諸問題に対応できる人材を育成します。カリキュラム改訂により、従来の幼稚園教諭専修免許状、臨床心理士受験資格に加えて、学校心理士（補）受験資格、シニア産業カウンセラー受験資格の取得が可能となりました。

大学院入試案内	入試種別	出願期間	入試日
秋期試験	一般・社会人・留学生※	2006年9月14日(木)～9月21日(木) 必着	2006年9月30日(土)
春期試験	一般・社会人・留学生※	2007年2月1日(木)～2月8日(木) 必着	2007年2月15日(木)

◎金城学院大学の在學生には、別に在學生特別入試が実施されます。
※実施される入試種別は、専攻によって異なります。詳細は大学入試広報室TEL.052-798-4471(直)までお問い合わせください。